

わかやま

No.9

和歌山県精神保健福祉センターだより 2001年10月

「六人の青年たちの姿に 感動！」

麦の郷岩出地域生活支援センター 田中秀樹

9月末の土曜日の午後、麦の郷岩出地域生活支援センターハートフルハウスで、これから高校などの進路を選ぼうとする子どもたちのための「進路交流会」が開かれました。ハートフルハウスを巣立った青年たち6人が、『どう進路を選び、今何をし、これからどうしたいのか』を見事に語ってくれました。海外青年協力隊へ行くために大学を選ぶ人、鉄道会社をめざす人、飲み屋をやりたい人、福祉の仕事を選ぼうとしている人など、それぞれの道を選び着実に目標に向かっていく姿は、初めてハートフルハウスを訪れた時の『弱さ』はなく、ハートフルの子どもたちや保護者、わたしたち関係者に勇気を与えてくれるものでした。また、子どもたちには多くの人が見守ってくれることを感じてもらえたのではないかと思います。

地域生活支援センターでは実に多様な問題と出会いますが、岩出支援センターでは「不登校」の問題、青年・成人期の「ひきこもり」の問題についての数多くの相談が寄せられます。これまでの130人をこえる不登校相談の2割以上に何らかの精神医療のケアを必要な人たちが含まれています。

地域生活支援センターは成人の精神障害者の支援が中心という指摘もありますが、それとて思春期や青年期の課題をどのようにとらえるかが必要です。人間は18歳までとか18歳以上などとかで生きているわけではなく、連続の積重ねで生きています。こじれてしまったからのねじれや絡まりをほぐすのは何倍にも労力が必要であり、解決の糸口はそこに立ち戻ってこそしか見出せません。「不登校」「ひきこもり」という社会へのシグナルをどうとらえ、どのような支援システムを作っていくかが急がれ、しかも「誰が」やるかということが問われています。

それに比べて私たちのやれることは限られていて「ともに歩みつづける」ことでしかないのかもしれませんが、それにかかわる機関や人が多くなれば支援の幅が広がっていくことにつながっていきます。

6人の青年たちにつながる青年たちのためにも、多くの人と手をつなぎ運動をすすめていきたいと考えています。

もくじ

- P1 六人の青年たちの姿に 感動!
- P2 市町村精神保健福祉職員研修を終えて
- P3 おまたせしました 田辺・西牟婁地域です!!
- P4 子どもたちの未来のために
—「登校拒否の子どもを持つ和歌山市親の会」—
- P5 メンタルヘルスニュース
ビデオ紹介 「精神分裂病を生きる」
朝井所長のひとりごと
- P6 はーとふるネットワーク
「海南保健所 高橋佳一さん」
研修のお知らせ

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

市町村精神保健福祉担当職員研修を終えて

7月9日・10日・11日の3日間、社会保険紀南総合病院新庄別館で、7月16日・17日・18日の3日間、和歌山ビッグ愛で、市町村精神保健福祉担当職員研修を行いました。

平成14年度からの精神保健福祉業務のなかの福祉サービスについての各市町村への業務委譲に向けて、各市町村から保健婦・事務職員が実人員100人、延べ人員203人の参加があり、アンケートには87人の回答がありました。

研修内容は、精神保健福祉の制度や歴史・精神疾患・現場での対応等幅広く精神保健福祉の知識を吸収してもらうことをテーマとして、後日、社会復帰施設や小規模作業所での施設実習も盛り込んで実際の障害者ともふれあってもらう内容としました。

アンケート調査からは、以下の問題点や要望等がだされました。

精神障害者保健福祉手帳、通院医療費公費負担に関する事務は可能かとの問いに関しては、実施可能と答えた者が38人(45.2%)であり唯一、業務に対する抵抗感が低いことがうかがえました。

次に社会復帰施設等の福祉サービスの利用に関する相談は可能かとの問いに関しては、可能と答えた者は14人(16.1%)で、居宅生活支援事業の実施は可能かとの問いについては、可能と答えた者は3人(3.5%)でした。

以上のことから、精神障害者が市町村の窓口に来所された場合に、精神保健福祉の事務的な業務についてはなんとかなるが、実際に福祉サービスを調整し、具体的にコーディネートしていく段階に至っては、ほとんどの市町村の職員の力だけでは困難であることがわかります。

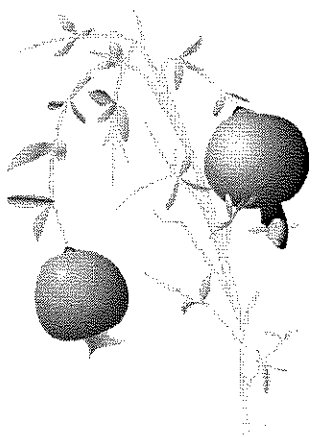
このほか、福祉サービスを実施していくために何が必要かとの問いには、専門職員の増員が最も多く、次に社会復帰施設等の充実、センターや保健所の援助、市町村の職員の研修の充実と続いています。

今年度の事業として、精神保健福祉センターでは、昨年度に引き続き精神障害者ケアマネジメント従事者養成研修を11月に実施します。障害者の地域生活支援の推進のために、できるだけ多くの市町村職員に福祉サービスに対してのマネジメント能力を高めてもらえればと思います。

また、居宅生活支援事業に代表される社会資源の整備については、県内各地域において均等な整備が行われているとはいえないため、今後も引き続き各地域からの声を大切に施策に生かすことを考えなくてはなりません。

今後、精神保健福祉センターとしては、研修参加者の強いニーズのあった「現場の実践活動について」「窓口業務での具体的対応方法について」といったテーマに対して、当事者に対してのニーズ調査の実施や相談マニュアルの作成を行い、各市町村の実践活動の強化のための活動を展開していくことを考えております。

(県精神保健福祉センター 長島 隆)



県下の保健所及び管内の紹介をして、8回目になります。今回は田辺保健所です。

おまかせしました 田辺・西牟婁地域です！！

〈 田辺保健所の現状 〉

田辺保健所は、和歌山県のほぼ中央部に位置し、田辺市、日高郡、西牟婁郡の1市6町3村を担当しています。面積は、1376Km²で和歌山県全体の約30%を占めています。農林水産業が盛んで、特に梅の生産は日本一です。また白浜温泉、椿温泉、龍神温泉をはじめ南部梅林等多くの観光地があり年間を通じて観光客でにぎわっています。

〈 田辺保健所の精神保健福祉活動 〉

○こころの相談

嘱託医による相談を月3回実施し相談員や保健婦(士)の相談も随時受け付けています。社会環境の変化に伴い相談数も増え、内容も多岐に渡り複雑化しています。

○家族教室

精神障害者の家族を対象に、病気に対しての理解や家族としての対応・社会福祉の制度について学ぶことで、精神障害者の社会参加の協力者となることを目的に4回シリーズで実施しています。

○デイケア

所内で月2回実施。すさみ町・日置川町・龍神村・中辺路町・南部川村とは共催で、それぞれ月1回実施しています。

○精神保健ボランティア講座

平成12年度よりボランティア育成事業の一環として、地域で核となる方々に精神保健福祉について理解を深めてもらうという目的で管内の民生委員を対象に実施しています。

〈 紀南地域の精神保健福祉活動 〉

管内には、精神医療機関として紀南病院新庄別館があり、住民の精神医療を担っていました。昭和63年の「精神保健法」の施行に伴い、精神障害者の地域での受け皿作りが必要ではないかということで、新庄別館、民間福祉団体、田辺保健所等の有志が集まり、平成元年に精神疾患や、精神障害者に対する理解を深めるための学習・啓発活動を目的としたボランティア団体「精神障害者の社会参加をすすめる会」が発会し、その会の活動の後押しもあり同年3月に精神障害者家族会「八起き会」が発足、9月には民家を借りて管内初の精神障害者小規模作業所「やおき工房」が開所しました。

さらに平成8年には作業所が法人化され、平成9年には、生活訓練施設と通所授産施設が新設されるなど充実が図られました。

南部町においては平成2年に小規模作業所「なかよし作業所」が開所、平成11年には知的障害者通所授産施設「なかよし作業所」として法人化され、さらに精神障害者のみを対象とした小規模作業所「ふれあい作業所」が新設され、12年には「小規模作業所スマイル」へと名称が変更されました。すさみ町においても、すさみ町精神障害者家族会が中心となり平成12年より「いなづみ作業所」が開所されるなど、管内の精神障害者の社会復帰施設の整備が充実されつつあります。

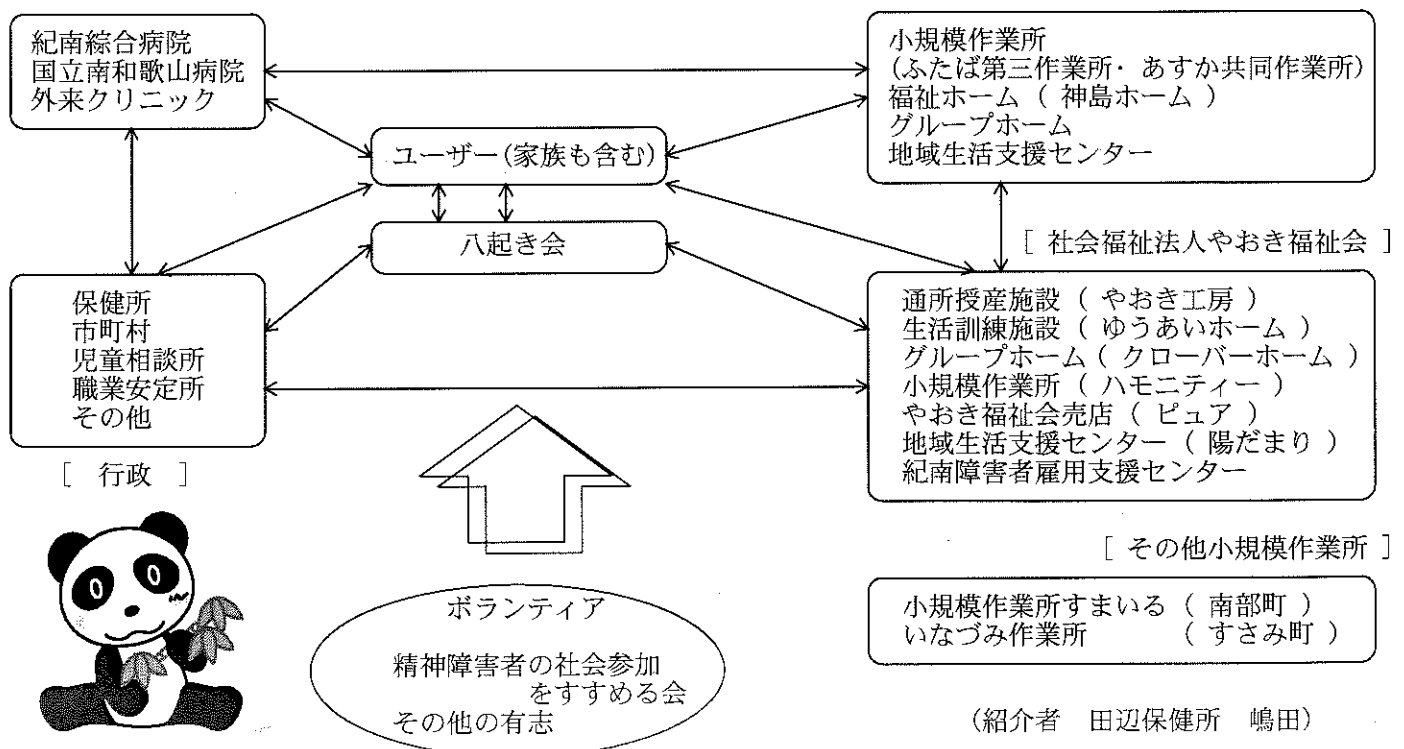
田辺保健所管内においては、現在地域の「精神障害者やその家族が穏やかに生活できる」ことを目的に精神保健福祉に関する普及啓発の促進を図るため、各関係機関が集まり地域精神保健福祉業務連絡協議会を開催しています。

今後とも、精神障害者と共に、各関係機関と連携を取りながら、精神障害者の社会復帰・自立支援のための発信基地として頑張りたいと思いますのでご指導、ご支援よろしくお願ひします。

田辺保健所管内 地域精神保健福祉ネットワーク

[医療機関]

[社会福祉法人 ふたば福祉会]



(紹介者 田辺保健所 嶋田)

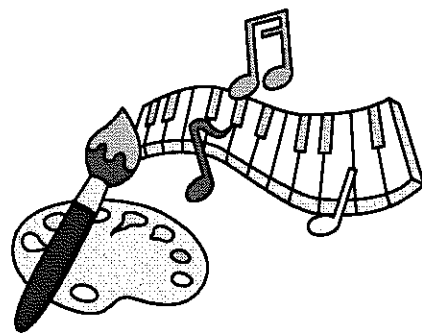
このコーナーでは、シリーズで県内の組織やグループの活動を紹介します。

「登校拒否の子どもを持つ和歌山市親の会」

子どもたちの未来のために

1975年以降、不登校の子どもは増え続け、関係機関でも様々な取り組みがなされるようになってきました。また、近年、青年期のひきこもり等新たな課題が出てきています。

和歌山市では、約10年前に登校拒否の子どもを持つ和歌山市親の会が結成され様々な活動が行われています。事務局の大西さんにお話を伺いました。



Q 親の会結成から現在までの経過を聞かせて下さい。

大西 1988年に県教育相談センター主導で「和歌山県親の会」が結成されました。各郡市でも結成されるようになり、和歌山市でも10年前に結成されました。しだいに組織も財政も整備され、親が主体的に運営する組織になっています。

平成9年4月には、子どもたちが安心して通える居場所としてレインボーハウスを開設し、今年3月にはNPO法人の認証を受け独立しました。レインボーハウスは、毎週月曜日から水曜日を除く土曜日までの5日間開設し、小学生から青年までが対象で、曜日ごとに小学生、中学生の日などに分かれています。みかん狩りやキャンプ、スキーなどの季節の行事や、料理、パソコン講座も開いています。

Q 親の会ではどのような活動をしていますか？

大西 親の会は、隔月に定例会を実施し、県親の会主催の学習会にも参加し、体験交流を深めています。また、講演会や交流会、子どものための行事も開催しています。そのような活動の中から、子どもの年齢で親の悩みや気持ちに差が生じてきたため、「青年の親の会」ができ、毎月第2土曜日に会合を開いています。

また、市教育相談センターとの共催で、「中学生サークル」をほぼ月一回開催しています。このサークルは、和歌山大学学生クラブ「プラットホーム」が開いていた自由学級を発展的に解消して、1993年に和歌山市相談所と親の会の呼びかけで発足したもので、和歌山市以外の郡市からも参加しています。

青年たちの居場所として、市教育相談センター主催での「青年サークル」も週2回開催され、10代、20代の青年が参加しています。青年サークルは田辺市でも開催されています。他にも毎月通信を郵送したり、レインボーハウスの支援や行政との懇談も行っています。

Q 関係機関とはどのように連携していますか？

大西 教育相談センターには、定例会の場所を提供してもらったり、オブザーバーで参加してもらったりしています。また、教育委員会と懇談会を持ったり、学校との話し合いを通じて連携を深めることで、校内での子どもの居場所や親の交流会が出来てきています。その活動は、和歌山市内だけでなく、市外の学校へも広がってきています。

Q 親の会活動を始めて変わったことや、この活動から得るものは？

大西 「親が変われば子どもも変わる」を実感しています。子どもが変われば親も元気になるし、その事でお互いがよい方向に向かいます。他の人のよい話を聞けば、先が見え、将来の展望が持てるようになります。実際に変わってきた子どもを見ることで、本を読むよりも実感として大丈夫だと思え、また他の人にも大丈夫と言われて安心できます。そして、自分だけではないという思いと、「グチ」が言えることで気持ちが楽になりました。

Q 精神保健福祉の関係者に伝えたいことは？

大西 親の会にも青年期のひきこもりの相談が多数寄せられています。学齢期だと他に関わる機関がありますが、青年期になればどこに相談してよいのか分からないという方が多いので、公的・民間を問わず相談機関のPRをして頂きたいです。また、親と子だけでいると息がつまる思いがするので第三者の介入も必要でしょうし、本人への接し方や暴力への対処方法などについても、正しい情報提供をして頂ければと思います。

Q 一般の人たちに伝えたいことは？

大西 色々な事件が起こると、不登校が犯罪の引き金になっている様にマスコミで報道され、近所の人からも否定的に見られます。不登校の子どもたちは、真面目で几帳面で、優しい子、気を遣う子が多く、エネルギーを多く消耗します。不登校を「エネルギーをためるための休憩時間」として捉え、親も子どもゆっくり休ませてあげてほしいし、誰にでも起こって当たり前、という温かい目で気長に見守ってほしいと思います。

連絡先 〒640-8155 和歌山市九番丁5
和歌山市教育相談センター内
和歌山市親の会事務局
窓口 ☎ 073(431)1655

今回は、「青年の親の会」の方にお話を伺う予定です。

和歌山メンタルヘルスニュース

県内の精神保健福祉関連の最新情報と当センターの活動をお知らせします。

(1) 8月8日、精神障害者訪問介護員（ホームヘルパー）講習会を実施し、社会福祉協議会・社会復帰施設・事業所等から、95人の参加がありました。8月9日、10日、21日は麦の郷で施設研修を実施しました。実際に当事者と接する事で、学ぶ事も多く、自信に繋がったようです。引き続き研修を希望する声が多く、今後よりよいサービス提供に向けて研修の体制について検討していく必要性を感じました。

(2) 9月3日、精神保健福祉協会総会と講演会（和歌山こころのつどい）を開催しました。講演会では山梨県立精神保健福祉センター所長 近藤直司先生に「引きこもりの理解と治療的アプローチ」というテーマでご講演をいただきました。引きこもりケースに対する私たち援助者としての留意点や課題をととてもわかりやすくお話しいたいただき参加者の皆さんからも好評でした。なお、当日は会員を始め、専門職、一般の方を含めて110名の参加があり、引きこもりに対する関心の高さが窺われました。

(3) 9月21日思春期精神保健研修会を開催しました。和歌山県子ども・障害者相談センター小野善郎先生に「注意欠陥／多動性障害（ADHD）とその関連障害」、和歌山大学廣井亮一先生に「思春期問題とシステム論から考えるその対応について」というテーマでお話し戴きました。学校の先生方を中心に保健婦士、看護婦士、PSWなど思春期精神保健に関わる方々約140名の参加がありました。当初の予定を上回る申し込みに急きょ会場を変更、座り心地の悪い机付き椅子になってしまい参加者の皆さんには大変申し訳ありませんでした。

(4) 平成13年9月22日（土）、和歌山マリーナシティホール「WAVE」にて、第6回ハロー“喜の国”ふれあい人権フェスティバルが行われました。精神保健福祉センターも一つのブースを設けました。全国精神障害者作業所連絡会から借用した「精神病院のパネル」展示を行い、浦河べてるの家が企画・制作した「精神分裂病を生きる」のビデオを上映しました。心地よい秋のひとつときに、こころの病に関しての理解が少しでも芽生えたでしょうか？

(5) 秋は文化祭の季節。精神保健福祉協会では初めての試みですが、この機会を利用して高校生にアルコールについて理解をしてもらうためのキャンペーンを実施しました。那賀支部と共に那賀高校と貴志川高校でパネル展示やパッチテスト、アンケート調査を行いました。茶髪にばっちりメイクの女子高校生たちがパッチテストの結果の説明を真剣に聞いてくれたのにはちょっと驚いたり見直したりでした。



ビデオ紹介

3月のこころのフェスティバルで講演をお願いした、「べてるの家」が自主企画したビデオ「シリーズ精神分裂病を生きる」を購入しました。「べてるの家」の仲間が、幻聴や妄想、病気との付き合い方を語っています。全10巻中、5巻(*)購入しています。ご希望の方には貸し出しをしますので利用してください。

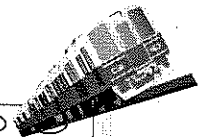
第1巻	妄想篇その1	四六時中のぞかれていた7年間	〈32分〉
第2巻	妄想編その2	ヒーローたちの戦い	〈35分〉*
第3巻	”幻聴”から”幻聴さん”へ		〈37分〉
第4巻	721人の幻聴さんとともに		〈35分〉
第5巻	成長する幻聴さん		〈25分〉
第6巻	幻聴とも妄想とも仲良く暮らす		〈35分〉*
第7巻	引きこもりのすすめ		〈33分〉*
第8巻	言葉にできない思いの爆発		〈37分〉
第9巻	飲まされるクスリ 飲むクスリ		〈31分〉*
第10巻	話すことから始まる回復への道		〈37分〉*

ある日のできごと

もう2ヵ月前のことですが、センターの親睦を深めるため、ホテルのサマーバイキングに出かけました。おなかいっぱい食べて大満足。締めくくりには所長は昔を懐かしみながらかき氷を食べ、続いて何を思ったのかまた何かを取りに行きました。帰ってきたその手にはみそ汁が・・・みんなの目は点。かき氷の後のみそ汁。何ともミスマッチな締めくくりでしたが、とても楽しいひとときでした。

朝井所長のひとりごと

「日本一旅客列車が少ない終着駅」として、鉄道マニアの間で良く知られている、南海電鉄和歌山港線水軒駅の廃止がほぼ決まった・・・と新聞のコラム欄に載っていた。紀州徳川家の名庭園”養翠園”に行くための電車であり、和医大に入学した昭和30年代には乗客も沢山いた。廃止と決まった昨今では、1日平均約3人。あと少しで定年を迎える自分と重ねて・・・マッカーサーの言葉が脳裏を過ぎった。「老兵は死なず。ただ消えゆくのみ」



精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーを作りました。

第一弾は、保健所の相談員さんシリーズです。

はーとふるネットワーク



今回は海南保健所の高橋佳一さんです。

— 県の保健所に就職して何年になりますか？

平成2年10月着任。県では初めての相談員でした。本庁、健康対策課に所属して、週2日は岩出保健所兼務。そして当時、県精神保健福祉センターが吉備町の五稜病院に在った際には、「こころの電話」相談も行っていました。とてもやりがいのある頃で、それからちょうど11年が経ってしまいました。

— それまではどんなお仕事をされておりましたか？

福祉系の大学を卒業して、民間の精神病院のアルコール専門ソーシャルワーカーを出発点に、ソーシャルワーカーを十数年してきました。救護施設、一般病院のSWや老人医療にも携わってきました。

— この仕事をしていて良かったと思う時はどんな時ですか？

やはり以前関わっていた方が、元気な姿で、再び出会えた時に尽きますネ！そして、少しでも何かお役に立てたと思われることがあれば嬉しいですね！

— 仕事で苦労する点はどのようなことですか？

精神保健福祉に携わるスタッフがだんだん少なくなり、緊急対応を要する患者さんが重なったときの対応人員の調整に苦労しています。

— 多趣味だと伺っていますが、休日の過ごし方を教えてください。

暇があったら海にいます。シュノーケリング、スクーバダイビング、クルージング、フィッシング・・・と”海が大好き人間”です。特に大海原で大きな魚を狙って他の一切のことを忘れて没頭している時が、この上なく幸せです。

— 高橋さんはとても気さくな方で誰とでも友達になってしまいますね。今までに何か楽しいエピソードがあれば教えてください。

学生の頃インドネシアへ一人旅に行った時、長距離バスの中で、初めて出会った男性と親しくなり一緒に旅をしました。とても人なつこいお国柄の人だけに、スキンシップも半端なものではなく、とんでもない事に・・・困った経験があります。

— 今後の抱負を教えてください。

明日のことはわかりません！いつ死んでも悔いのない生き方をしたいものです！！

— 高橋さんから次の相談員さんのご紹介をお願いします。

会って話をするだけで楽しくなる御坊保健所の吉岡範通PSWさんを紹介します。吉岡くん！毎朝9時ちょうどはどこにいるのですか？とてもお忙しいようで、電話をしてもいつも出ていただけないのですが・・・

研修のお知らせ

精神障害者ケアマネジメント従事者養成研修（申し込みは締め切りました）

日時	第1日目	11月5日（月）	13:00～16:00	ケアマネジメント総論・ケアガイドラインの意義と理念
	第2日目	11月7日（水）	10:00～16:00	ケアマネジメント各論・ニーズに基づくケア計画の基本的な考え方 ケース検討（用具類の使用法、ケアアセスメント）
	第3日目	11月9日（金）	10:00～16:30	演習 モデル会議とケア計画の立案Ⅰ・Ⅱ 和歌山県におけるケアマネジメント推進事業報告

講師（第1日目） 社会福祉法人ワナーホーム理事長 寺田一郎

（第2日・3日目） 花園大学講師 三品桂子

場所 和歌山ビッグ愛 204・1201・801会議室

精神障害者ホームヘルパー講習会（前回の研修で申し込みをした方を対象に実施）

講義日時	11月14日（水）	9:30～16:40	場所	和歌山ビッグ愛 801会議室
	・精神障害の基礎知識			国保野上厚生総合病院 神経精神科医長 上野半兵衛
	・精神障害者ホームヘルプサービス			社会福祉法人 やおき福祉会
	— 援助内容と援助技術—			生活支援ワーカー・ホームヘルパー 篠崎恵子
	・精神障害者を持つ家族（会）の立場として			和歌山県精神障害者家族会連合会 会長 大島信雄
	・精神保健福祉施設と制度			精神保健福祉センター 精神保健福祉相談員 長島隆

施設研修日時 11月15日（木）、16日（金）、19日（月）（3日間のうち1日を選択）13:00～16:00

場所 社会福祉法人 一麦会（麦の郷）

メンタルヘルスのためのセミナー（定員90名・先着順）

日時 平成13年12月3日（月）13:00～16:00 場所 和歌山ビッグ愛 1201会議室

講師 心理カウンセラー 下口雄山（NHK文化センター講師）

「集中力を強化して、仕事や生活をイキイキと」をテーマに、一般県民の方を対象とした研修を実施。（関係者の方も歓迎）心理学・大脳生理学を応用し、心身をリラックスさせてより元気になるための「プラス思考・笑顔イメージトレーニング法」を学習する。

申し込み 11月30日までに精神保健福祉センターへお電話で。

編集後記

月日が経つのは早いもので、センターへ着任してはや半年が過ぎてしまいました。精神保健の中核機関での保健婦の役割は・・・と自問自答の毎日ですが、たまに脱線して、センター便りには楽しい部分も入れていきたいです。皆様からのご意見もお待ちしています。